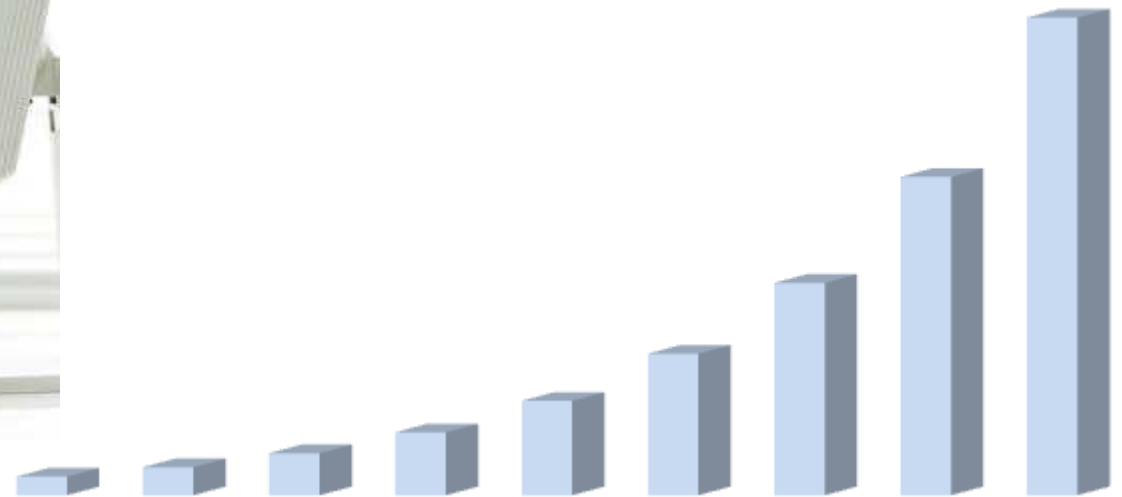


ソフトマックス株式会社

2015年12月期 決算説明会

2016年2月18日



I	会社概要	・・・2
---	------	------

II	2015年12月期決算概要	・・・14
----	---------------	-------

III	2016年12月期通期計画と今後の事業戦略	・・・21
-----	-----------------------	-------



I . 会社概要



会社概要

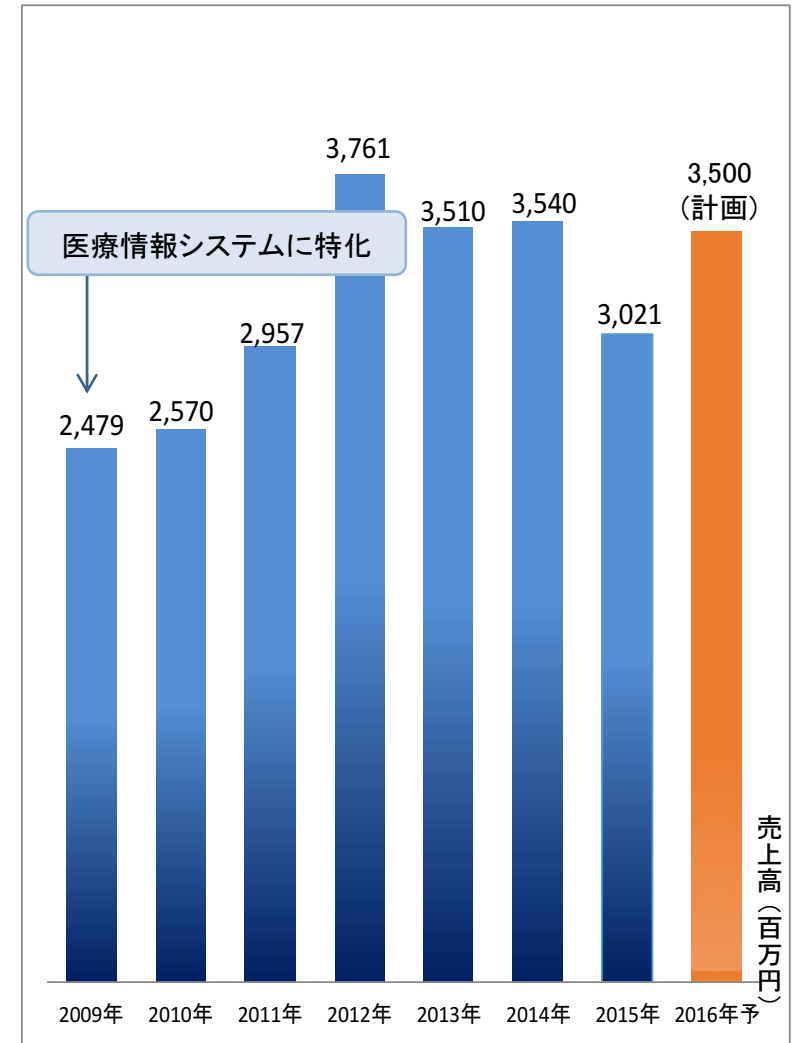
本社	東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 MATSUMOTOビル (東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー7階:2月22日移転予定)
本店	鹿児島県鹿児島市加治屋町12-11
代表者	代表取締役会長 野村 俊郎 / 代表取締役社長 永里 義夫
設立	1974年1月
事業内容	総合医療情報システム開発・販売・導入指導・保守
資本金	4億2425万円
従業員数	194名(2015年12月31日現在)

経営理念

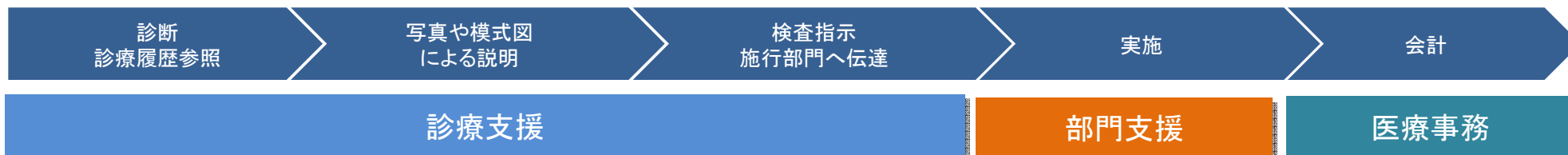
顧客の成功と利益

情報技術を駆使し、高品質かつ柔軟性・拡張性のあるシステム構築を通して、お客様に最適なソリューションを提供するトータルなシステムインテグレーションサービスを実現します。

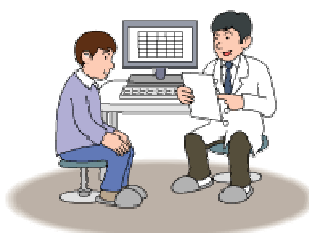




診断から検査、処方、会計までの流れ



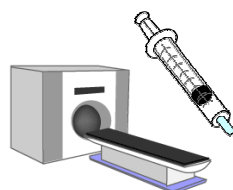
電子カルテシステム



- ・患者基本情報
- ・所見入力
- ・インフォームド
コンセント



オーダリングシステム



- ・処方
- ・注射
- ・処置
- ・検査



部門支援システム



- ・オーダー受け
- ・実施
- ・実施入力



医事会計システム



- ・オーダー受信
- ・算定
- ・会計処理
- ・レセプト電算処理



1. WEBブラウザを利用した電子カルテシステム

- 電子カルテのWeb型システムは開発難易度が高く、参入障壁は高い
 - 医療機関にSEを常駐させる必要がなく、稼働コストを低く抑えられる
 - 使用端末(PCやスマホ)の事前インストールが不要。導入納期を短縮
 - 専用端末は不要(Win OSとインターネット・エクスプローラーで運用)
- インストール型システムに比べて導入メリットが大きい一方、競合相手は少ない

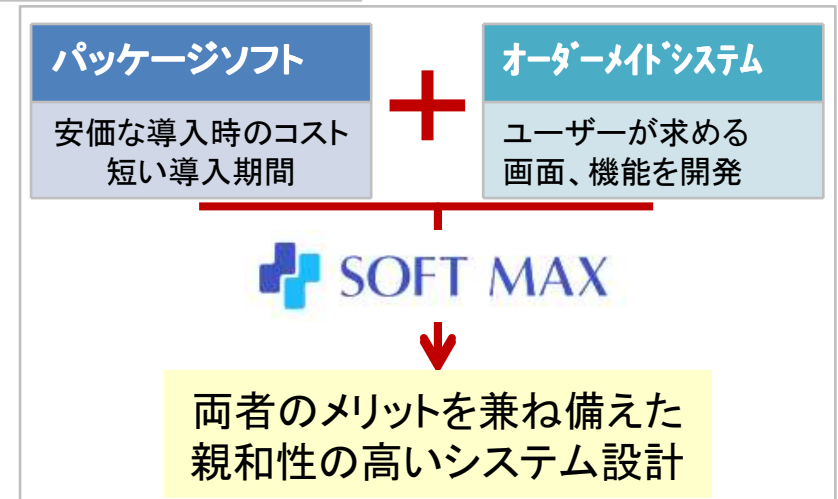


	参入障壁 (開発難易度)	クラウド化 移行	クライアント側の導入メリット					競合
			稼働コスト	端末設定	カスタマイズ	SE部専任 技術要員	導入納期	
 SOFT MAX Web型システム	高	メリット大 移行作業少	低	不要	容易	不要	短	少
インストール型システム	中	メリット中 移行作業小	中	要	困難	要	長	多



2. 顧客ニーズへの対応: 低コストを実現した独自のシステム

- 個々のユーザー毎に異なるニーズに対応可能
- 迅速かつ低コストのカスタマイズを可能とする開発体制
- 当社従来比、2カ月程度の納期短縮を実現



3. 顧客ニーズへの対応: 画面のレイアウトは自由自在

- 画面に表示させる情報、新規機能の開発にかかる稼働確認テストの期間を大幅に短縮
- 保守費用内での多様なカスタマイズも実現可能
- 出力帳票のレイアウトはExcelで簡単設定

中小病院と大病院の業務比較

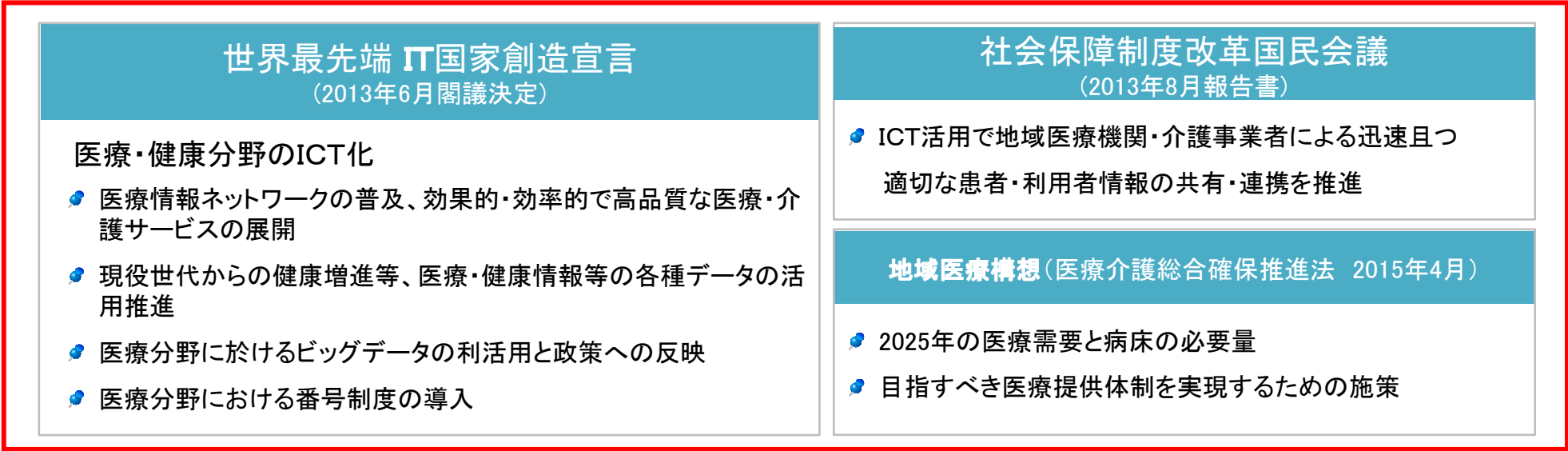
	中小病院	大病院
医師・看護師の業務内容	煩雑	標準化
業務フロー	多様	標準化
効率化余地	高	中



政府が推進する医療情報化に関する政策

厚生省「保健医療分野の情報に向けてのグランドデザイン」策定。電子カルテの推進が始まる
e-Japan(2001年)

出所:厚生労働省、首相官邸



十 財政再建のため
医療費抑制が急務



地域包括ケア、医療の効率化、コスト削減のためのIT化が必須



医療等分野のICT化推進のポイント

患者に提供するサービスの質の向上

病院や診療所の連携を推進

研究開発の推進

医療の効率化の推進

ICTの効果を最大限に発揮

2020年までに実現するICTインフラ

POINT 1 医療連携や医学研究に利用可能な**番号の導入** (マイナンバー制度のインフラを活用)

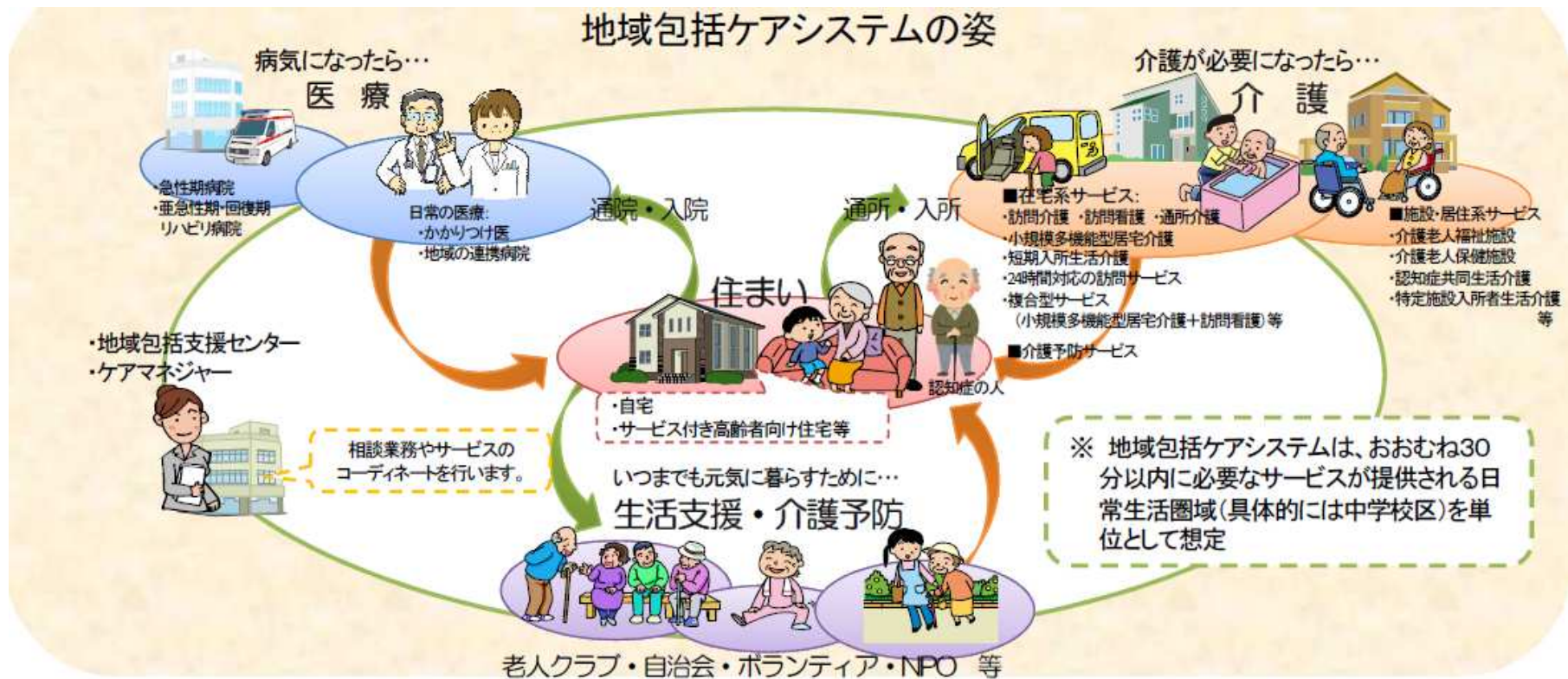
POINT 2 医療機関のデータの**デジタル化** + 地域の医療機関間の**ネットワーク化**

POINT 3 **医療データの利用拡大のための基盤整備**

出所: 厚生労働省

地域包括ケアシステム

● 2025年を目途に地域の特性に応じて住まい・医療・介護・生活支援を一体的に提供

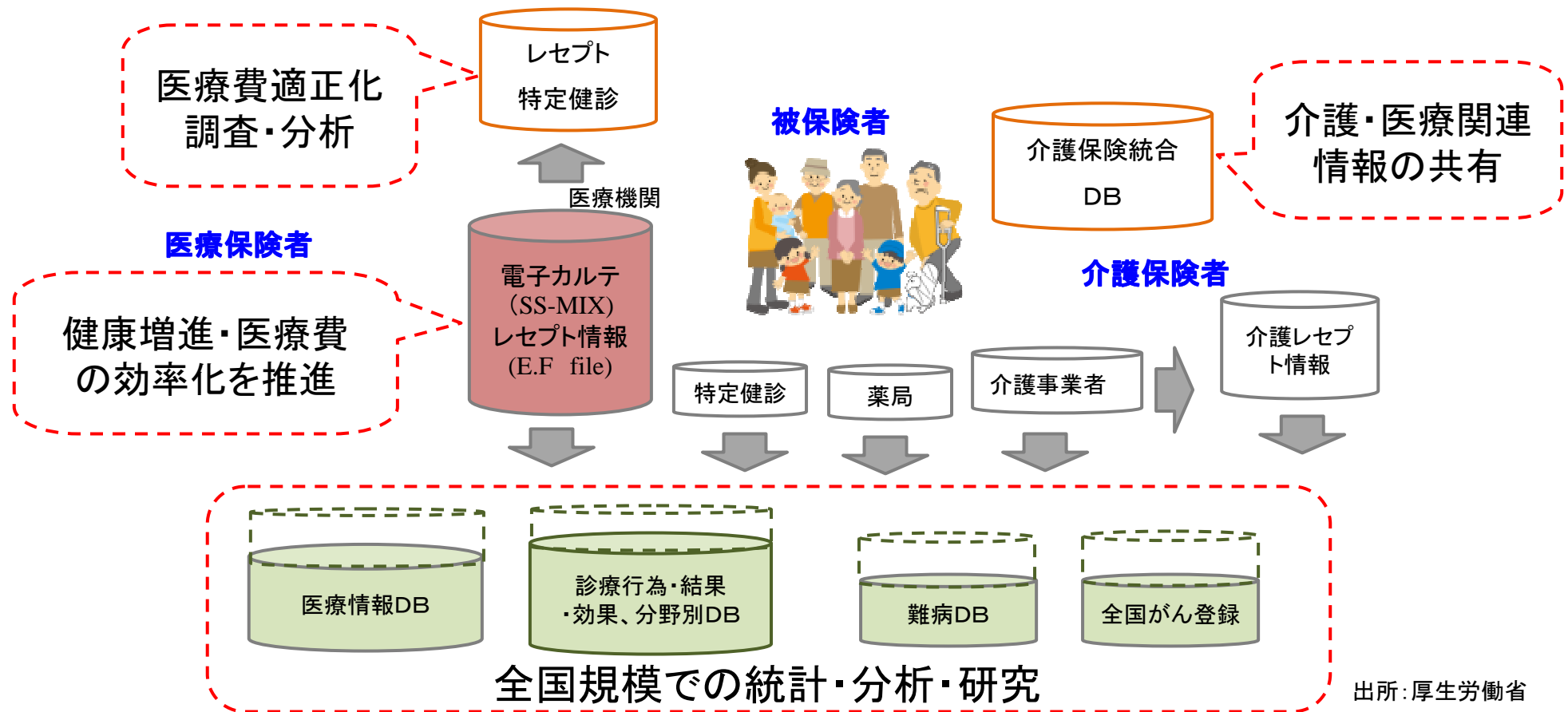


出所:厚生労働省



医療分野に於けるビッグデータの利活用

- 健康寿命を延伸するためには、ICTを利用した個人による日常的な健康管理が重要



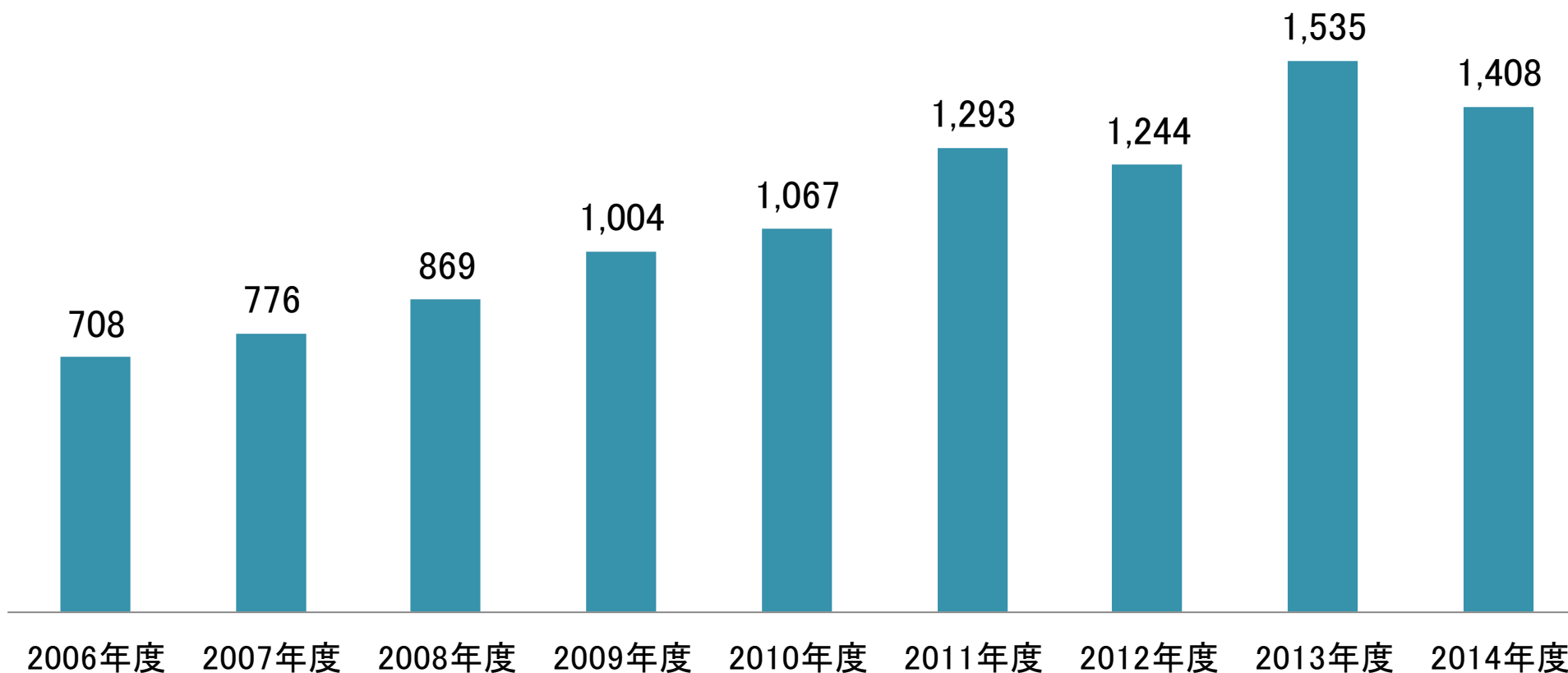
出所:厚生労働省



主戦場である電子カルテ市場推移

単位:億円

■ 電子カルテシステム直接売上高*



* 直接売上高とはエンドユーザーに販売した売上高

出所: 保健医療福祉情報システム工業会データより作成



主戦場である電子カルテ市場の急成長

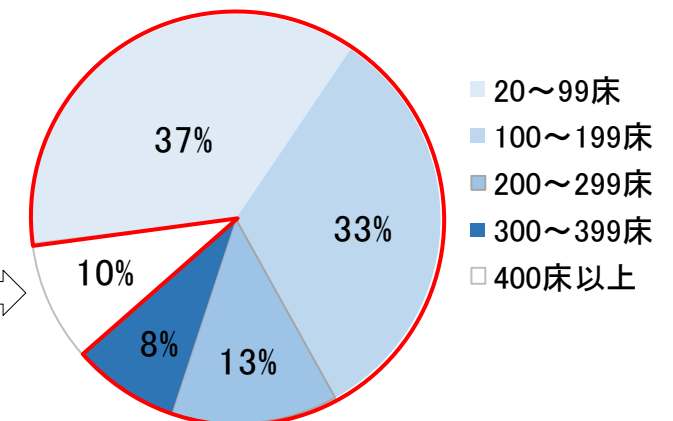
電子カルテシステム導入状況(病床規模別)

病床規模	電子カルテ※ ¹ 導入施設	構成比	※ ² 施設数	導入率
20～99床	356	16.4%	3,092	11.5%
100～199床	610	28.0%	2,757	22.1%
200～299床	334	15.3%	1,116	29.9%
300～399床	329	15.1%	711	46.3%
小計	1,629	74.9%	7,676	21.2%
400床以上	547	25.1%	817	67.0%
全体	2,176	100.0%	8,493	25.6%

当社のターゲット

電子カルテ未導入
約6,300施設
(全体の約74%)

病床規模別の病院施設数の割合



※1) 月刊新医療・保健医療福祉情報システム工業会より作成(2015年4月1日時点)

※2) 厚生労働省医療施設動態調査より作成(2014年10月1日時点)

Ⅱ. 2015年12月期決算概要

2015年12月期 総括

売上高	3,021百万円 (前期比 85.3%)
営業利益	67百万円 (前期比 58.6%)
当期純利益	53百万円 (前期比 64.0%)

- ✓ 中小規模病院へのWeb型電子カルテシステム導入が堅調推移
- ✓ 地域中核病院への総合的医療情報システム導入のアプローチを推進
- ✓ プライベートクラウドによる導入が堅調推移
- ✓ データセンターを利用した広域クラウドシステムの推進



(単位:百万円、下段は構成比)

	2014年12月期	2015年12月期			主な増減要因
		修正計画*	実績	前期比	
売上高	3,540 (100.0%)	2,971 (100.0%)	3,021 (100.0%)	85.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・システムソフトウェアの販売高が減少 (▲524百万円) ・ハードウェアの販売高が減少 (▲ 32百万円) ・保守サービス等の売上高が増加 (+ 37百万円)
売上総利益	865 (24.4%)	— (—)	835 (27.6%)	96.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高の減少 (▲519百万円) ・売上原価の減少 (+489百万円)
営業利益	115 (3.3%)	65 (2.1%)	67 (2.2%)	58.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・売上総利益の減少 (▲ 30百万円) ・販売費及び一般管理費の増加 (▲ 17百万円) (研究開発費の増加 ▲ 31百万円)
経常利益	146 (4.1%)	100 (3.3%)	104 (3.4%)	71.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・営業利益の減少 (▲ 47百万円) ・営業外収益の減少 (▲0.8百万円) ・営業外費用の減少 (+ 6百万円)
当期純利益	83 (2.4%)	40 (1.3%)	53 (1.8%)	64.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・税引前当期純利益の減少 (▲ 41百万円) ・法人税等の減少 (+ 11百万円)



単位:百万円／下段は構成比

種類別売上高	2014年12月期	2015年12月期	
			前期比
売上高	3,540 (100.0%)	3,021 (100.0%)	85.3%
システムソフトウェア	1,973 (55.7%)	1,449 (48.0%)	73.4%
ハードウェア	669 (18.9%)	637 (21.1%)	95.1%
保守サービス等	897 (25.3%)	934 (30.9%)	104.2%

主な増減要因

- システムソフトウェアについては、前期を27%下回りました。(構成比は前期の56%から48%にダウンしました)
- ハードウェアについては、前期を5%下回りました。(構成比は前期の19%から21%にアップしました)
- 保守サービス等については、既存顧客へのサポートが増加し、前期を4%上回りました。(構成比は前期の25%から31%にアップしました)



受注実績

受注高

(単位:百万円)

種別	2014年12月期	2015年12月期	
		前期比	
受注高	2,381	3,252	136.6%
システムソフトウェア	1,877	2,266	120.7%
ハードウェア	504	985	195.5%

受注残高

(単位:百万円)

種別	2014年12月期	2015年12月期	
		前期比	
受注残高	1,234	2,462	199.5%
システムソフトウェア	919	1,746	189.8%
ハードウェア	314	716	227.6%



地域	2014年12月期末	2015年12月期 新規導入数	合計
九州	79	8	87
関東・東北	11	3	14
中部・東海	6	3	9
中国	6	1	7
近畿	11	1	12
四国	2	0	2
合計	115	16	131

新規稼働状況

- 九州、関東・東北、中部・東海地域においては、新規導入が順調に推移
- 新規導入数のほか、3件の自社リプレースを実現
- データセンターを利用した広域クラウドシステムが6施設稼働＋プライベートクラウド1施設稼働（2016年2月現在）



貸借対照表の概要



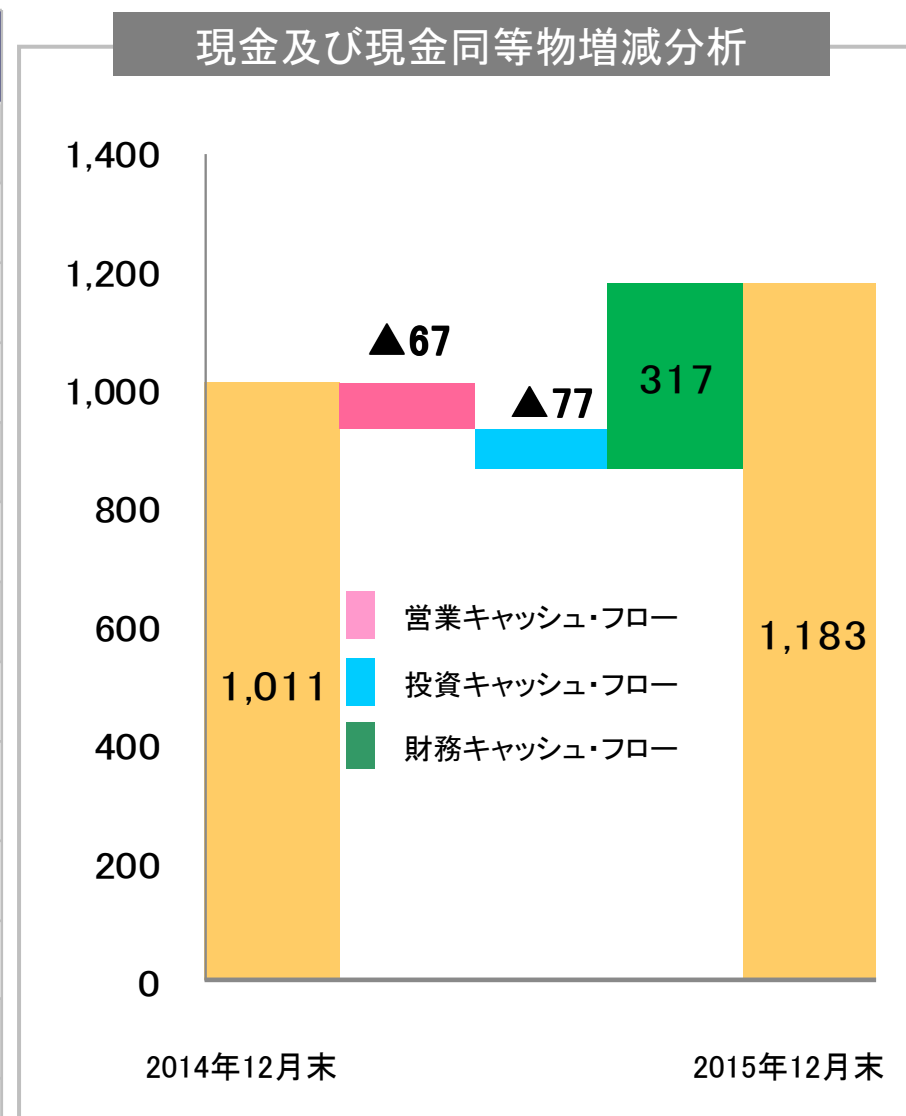
(単位:百万円、下段は構成比)

	2014年12月期	2015年12月期		
			増減額	主な増減要因
流動資産	2,568 (56.5%)	2,728	160	現金及び預金 +231百万円 受取手形及び売掛金 ▲339百万円 仕掛品 +264百万円
固定資産	1,979 (43.5%)	2,015	35	ソフトウェア仮勘定 +84百万円
資産合計	4,547 (100.0%)	4,743 (100.0%)	195	
流動負債	1,278 (28.1%)	1,104	▲173	1年以内返済予定長期借入金 ▲175百万円
固定負債	1,604 (35.3%)	2,000	395	長期借入金 +394百万円
負債合計	2,882 (63.4%)	3,104	221	
純資産合計	1,665 (36.6%)	1,639	▲26	利益剰余金 ▲26百万円
負債純資産合計	4,547 (100.0%)	4,743 (100.0%)	195	



(単位:百万円)

	2014年12月期	2015年12月期
営業キャッシュ・フロー	302	▲67
税引前四半期(当期)純利益	145	104
売上債権増減額(▲は増加)	▲36	339
たな卸資産の増減額(▲は増加)	49	▲263
投資キャッシュ・フロー	▲374	▲77
有形固定資産の取得による支出	▲364	▲7
財務キャッシュ・フロー	110	317
長期借入れによる収入	850	650
社債の償還による支出	▲500	0
配当金の支払額	▲79	▲79
現金及び現金同等物の増減額	37	171
現金及び現金同等物の期首残高	973	1,011
現金及び現金同等物の期末残高	1,011	1,183



Ⅲ. 2016年12月期通期計画と今後の事業戦略



2016年12月期 通期計画



(単位:百万円)

	2015年12月期		2016年12月期		
	実績	構成比	計画	構成比	前期比
売上高	3,021	100.0%	3,500	100.0%	115.9%
システムソフトウェア	1,449	48.0%	1,753	50.1%	121.0%
ハードウェア	637	21.1%	763	21.8%	119.8%
保守サービス等	934	30.9%	984	28.1%	105.3%
売上総利益	835	27.6%	1,096	31.3%	131.3%
営業利益	67	2.2%	325	9.3%	480.7%
経常利益	104	3.4%	360	10.3%	345.9%
当期純利益	53	1.8%	252	7.2%	471.2%



▶▶ クラウドシステム基盤で中規模施設への拡販

データセンターを核とした広域クラウドシステムの推進

プライベートクラウドによるグループ病院への更なる推進

▶▶ 10年先を見据えた機能強化とレビジョンアップ

常に最新のWeb型電子カルテシステムの環境を提供(導入から約10年)

長期的トータル運用コストの低減推進

高度なセキュリティ強化

▶▶ 病院部門システムの更なるラインナップ

院内の部門システムを随時、開発と機能強化

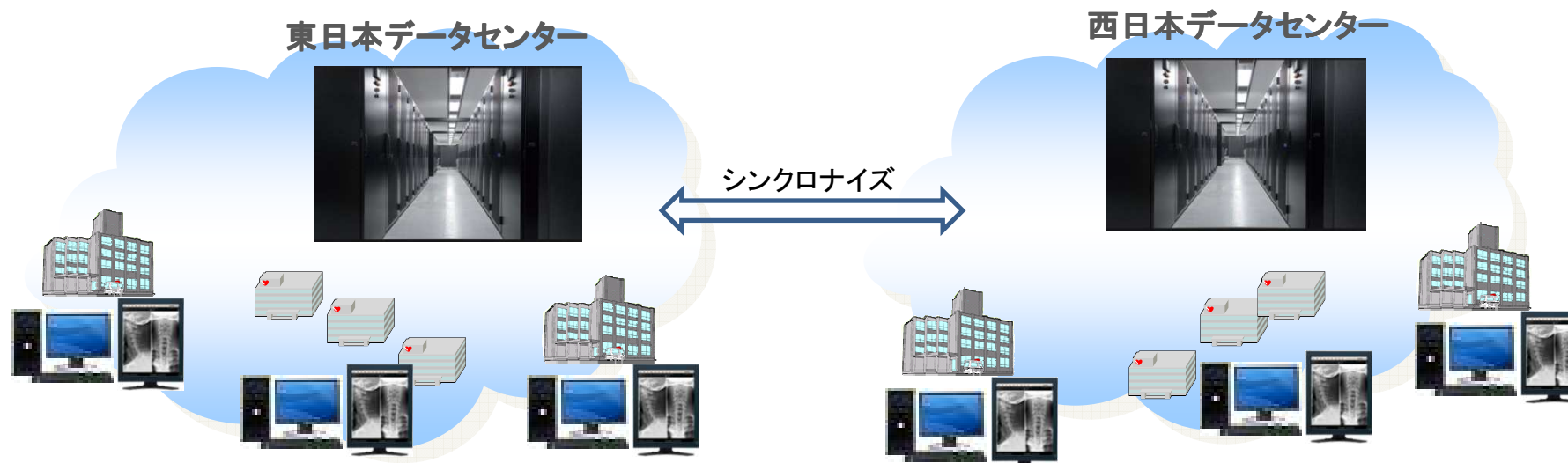
地域包括ケアでの医療・リハビリ・健康・介護を一体連携化

▶▶ 簡便な経営分析機能の提供

目指すべき医療提供体制を実現するための情報分析



Web型＋クラウドシステムの特徴



クラウドと既存システムの優位性

☆ 院内にサーバーが無い

- ・本体サーバー群の投資コスト、運用コストの低廉
- ・情報の一元化(連携共有) ・高セキュリティ
- ・高保存性 ・ビッグデータ化(統計、分析、研究) ・耐ディザスタ

☆ 運用メリット

- ・端末にPGが無い(ライセンス料が不要)
- ・データが無い(高セキュリティ) ・端末は市販PCで可



データセンターを利用した広域クラウドシステム

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)

～クラウド型病院情報基幹システム モデル～

—JCHOクラウド【Wave 1・フェーズ 1】—

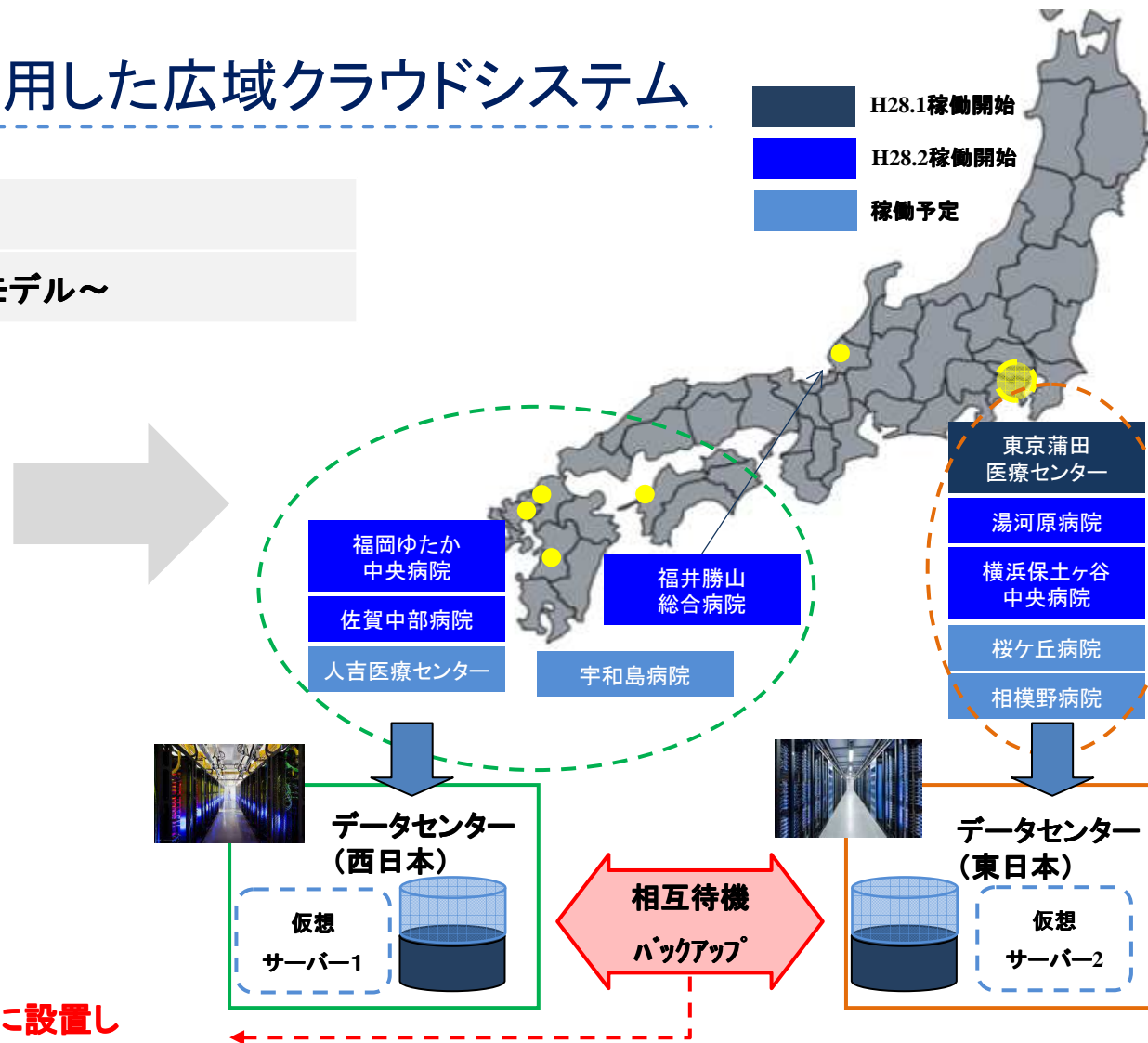
10病院を対象に構築

- H28年 1月 : 1病院稼働開始
- H28年 2月 : 5病院稼働開始
- H28年10月 : 4病院稼働予定

300床規模の36病院を
4グループに分け段階的に
導入計画

データセンターを西日本・東日本に設置し
相互バックアップで災害等障害時にも対応可能

- H28.1稼働開始
- H28.2稼働開始
- 稼働予定



▶▶ プライベートクラウドを利用したグループ連携

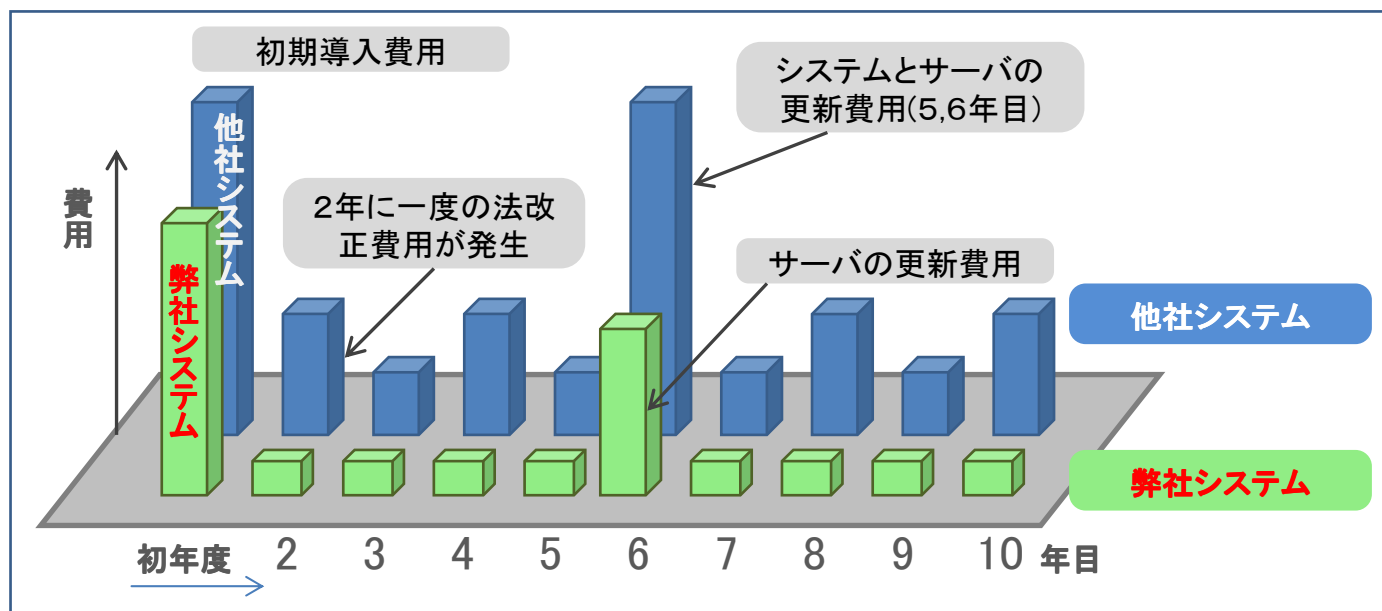
- ◆ 同一グループ病院・介護施設・診療所でカルテ情報を共有
- ◆ サーバの一元管理で、システム管理の省力化



10年先を見据えた電子カルテの機能強化とレビジョンアップ

稼働後についても**定期的に機能強化バージョンアップ**を行います。
保守費用の範囲内で実施しますので、病院様では常に最新の電子カルテシステム環境にてご利用が可能です。

長期的トータル運用コストを大きく押さえることが可能となります。

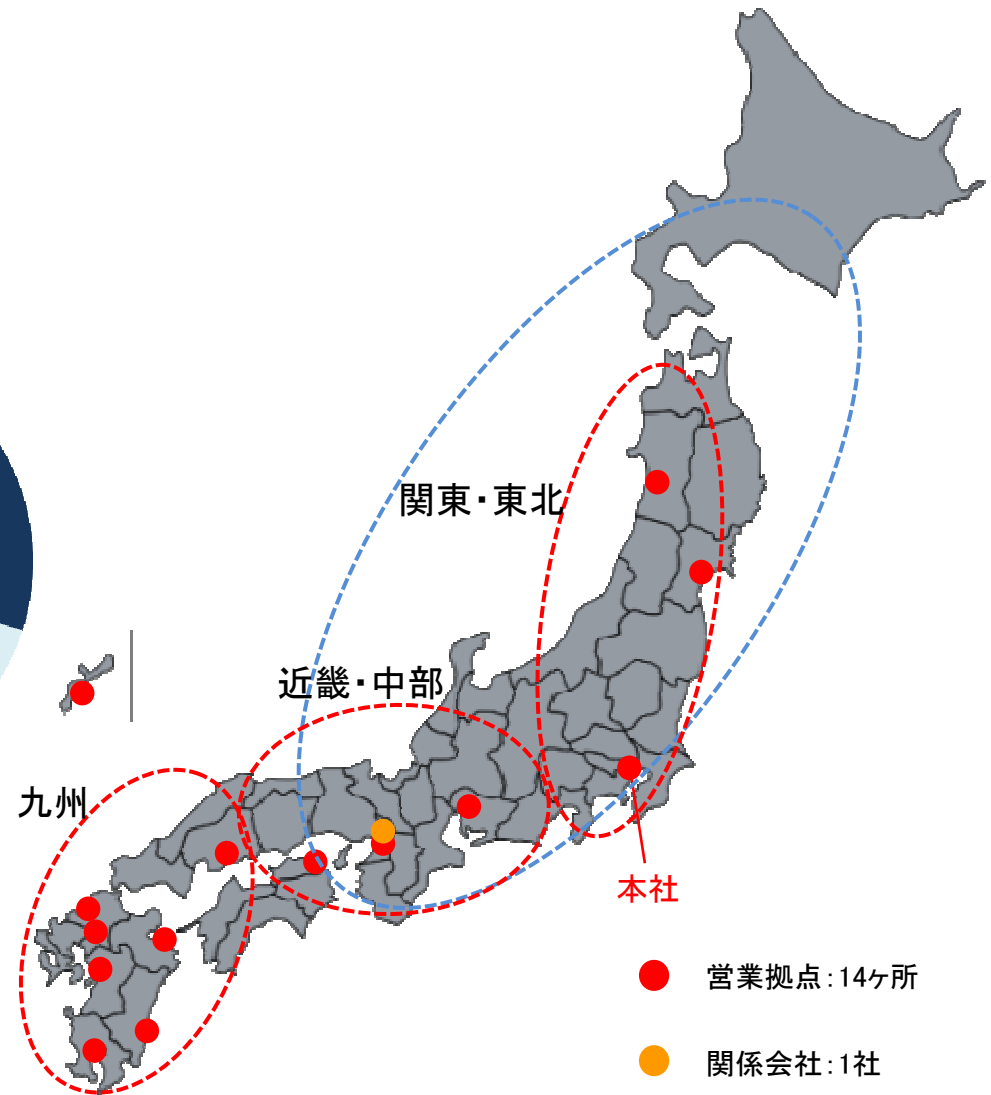
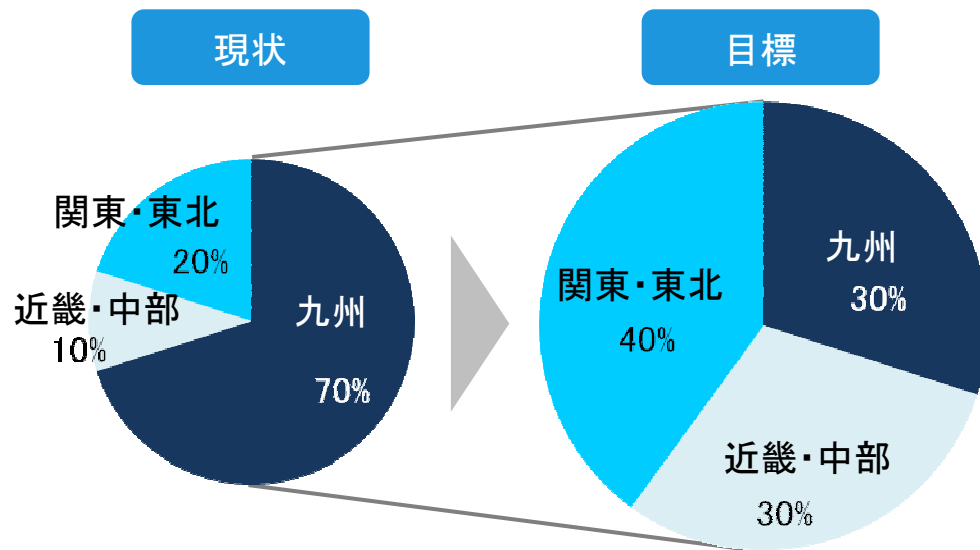


* ハードウェアの更新は保守部品が無くなりなると更新の必要があります。



営業エリアを拡大

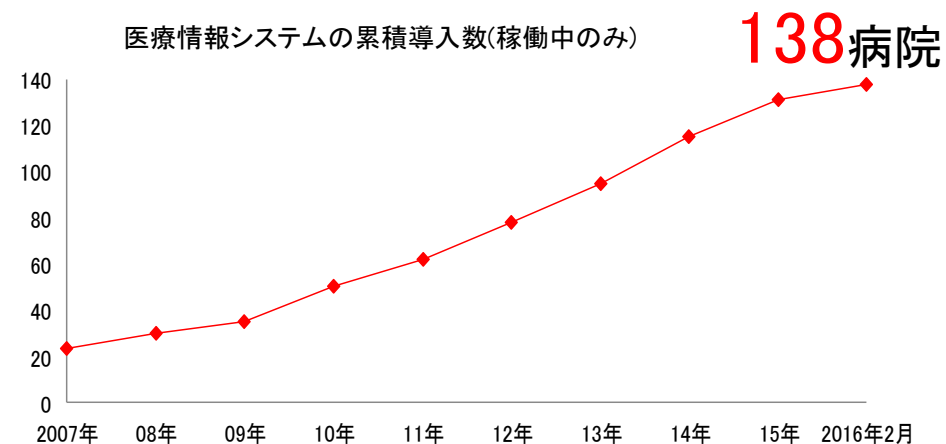
地域別売上構成比



40年間で培った医療機関からの信頼感、豊富な顧客基盤

- ◆ 当社のユーザーは、460を超える病院
- ◆ 医療情報システムは、その内の138病院に導入

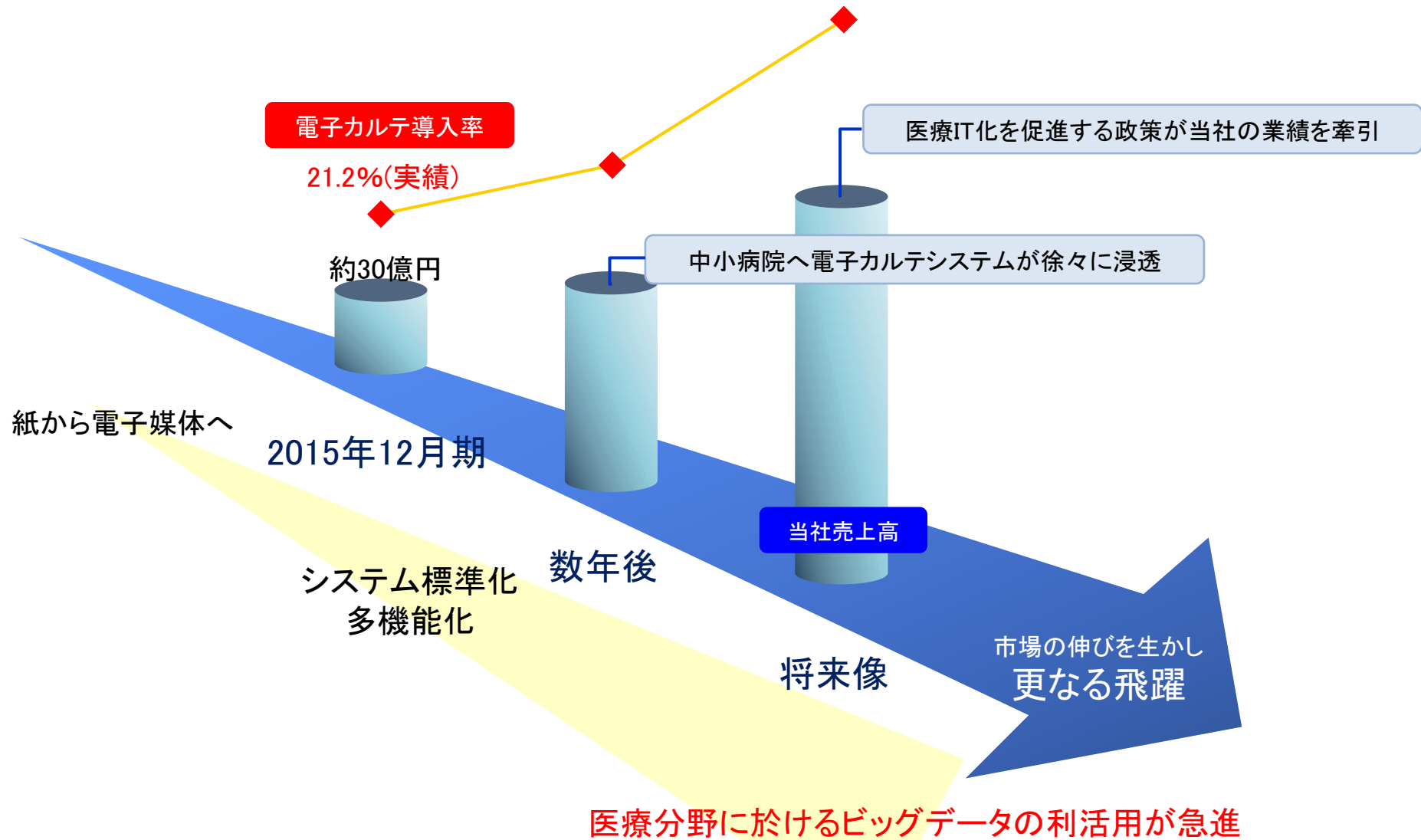
医療情報システムの累積導入数(稼働中のみ)



- 人員の増強、販売体制の強化
- アフタ・カスタマーサービス体制の強化
- プライベートクラウドを利用したグループ連携
- データセンターを利用した広域クラウドシステム
- システムの機能強化

- 営業拠点: 14ヶ所
- 関係会社: 1社







[連絡先] ソフトマックス株式会社

[本社] 東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー7階
03-5447-7772(東京)

[本店] 鹿児島県鹿児島市加治屋町12-11
099-226-1222(鹿児島)

